

一般質問「そこが知りたい」

本文は答弁も含め質問者の執筆をもとにしています

白巣道路問題

村側と意見噛み合わず

三浦征弘

1. 白巣道路について

問 昨年村長はこの道路の問題で「加子母 裏木曾側に開通の要望はしている」と答弁した。その時相手側の中津川市長や加子母協議会々長はどのように答えたか。

答（村長） 議員は以前「加子母は開通に反対している」と言ったがその根拠を示していない、その根拠を示せ。

答（三浦） およそ16年前 私が議員になった1期目の時、王滝村 加子母村 付知町の3町村議員大会が王滝村で開かれた。その席で私は白巣道路開通を強く訴えた。しかし会議が終わった後、加子母村長が小声で「賛成出来ない」と言った。これが変化した情報はないからだ。

まとめ

具体的には、次のことからそう言える。

- ① 王滝側が県に頼み、峠まで立派な舗装道路を作っても加子母側はゲートを作っている。
- ② 我々が開通をお願いしても色よい返事はなかった。
- ③ 3町村議員大会や町村長会議が取りやめになっていること 等である。

この質疑には双方の考えに大きな差があり、噛



3/9議会開会前に、全国町村議会議長会から三浦議員に在職15年以上の表彰状が贈られた

み合わなかったのが残念だ。

集落支援員新設に期待

村は社会福祉の充実が狙い

西村祥夫

1. 地域おこし協力隊および集落支援員について

問 29年度においては、地域おこし協力隊8名に加えて集落支援員3名の採用が予定されている。何度も繰り返して言われていることであるが、隊員と村民をつなぐ役場の受け入れ態勢とそれぞれに確固とした目的がなければ何の成果も生み出せないことは今までに証明されている。29年度における取組みを具体的にお聞きしたい。

答 29年度については、雇成型(非常勤嘱託員)の隊員を募集する。役場の各課に所属して村職員と連携しながら活動を行っていく。例としては、有害鳥獣対策、アウトドアスポーツ、子供育成など。また、募集にあたっては面接に加えて役場職員と同様の適正検査も実施していく。起業型隊員の募集予定はない。

集落支援員については、役場に所属して担当課の職員と連携しながら地域の課題解決に取り組んでいく。今年度は社会福祉協議会と協働で介護、福祉事業を行う。また、高齢者と一緒に特産品の開発をしたり、巡回バスのドライバーをしてもらうなどを考えている。

問 いずれにしても隊員個々の持てる能力に左右されることになるので、募集に当たっては十分に留意してもらいたい。また、隊員と村民をつなぐ役場の職員も対応が大変とは思いますが、成果が得られるようにしてやってもらいたい。

2. 役場職員の村民への対応について

問 以前にも質問したことではあるが、過日の議員と村民の懇談会においても、職員の村民への対応について不満や不信の声があり、中には信じられないような事例もあったと聞く。村長の現状認識



1月に購入された新巡回バス

と、村民の声にどのように答えていくのかお聞きしたい。

答 以前から何度も言われてきたことであり、庁内会議等でも改善を促しているところであるが、いまだに村民から指摘を受けていることについては、村長たる自分の至らなさと思っている。ただ、ここ10年くらいは村に明るい話題がないということにも起因しているのではないかと。いずれにしても申し訳ないことであり、村民アンケートにも同じような意見があったので、改善に向けて取り組んでいきたい。

問 それほど難しいことではなく、ちょっとした気遣いがあれば良いことと思う。上から押しつけてもダメだと思うし、役場全体の雰囲気が悪くなれば自然に解決できるようにも思われるので、そのような方向で取り組んでもらいたい。

3. 村民アンケートの取り扱いについて

問 昨年末に実施された村民アンケートの結果について、村民への周知は行わないのか。また、どのような形で村政に反映させていくのか。村長の考えをお聞きしたい。

答 2月末に全体の取りまとめができたところである。その後、管理職会議や関係課との調整をして、29年度の当初予算に計上したものもある。予算の伴わないソフト的なものには早めに対応していきたい。村民への周知については、個人への中傷的なものもあり、すべてということにはならないが、4月に予定されている行政連絡会議に示した後で、回状等で村民に周知していく。

問 公表できない内容もあることは理解できるが、あまり極端なフィルターをかけることのないように、村にとって耳の痛いことでも開示してもらいたい。

4. 山岳歴史文化会館について

問 山岳歴史文化会館については、昨年の3月議会において、郷土料理の継承に限定して営業されるとの答弁があった。非常に高い評価を受けていた「ひだみ」の郷土料理がどのような形で継承されてきたのかお聞きしたい。

答 28年度は管理人が常駐し4月から準備を始めたが、実質的な営業は6月からとなった。前任の方にも適宜指導を仰ぎながらやってきたが、前年にどんぐりの集荷が思うようにできなかったことから、どんぐりを生かしたものについては思うようにできなかった。28年度は集荷できたので、今後は活用に向けて取り組んでいきたい。

問 前任の方が作り上げてきた郷土料理が非常に高い評価を受けてきたことはご承知の通りと思う。今後は、その方たちの協力を得る中で対象を広げて講習会を開くなど、継承に向けて取り組んでももらいたい。

答 先般、答弁させていただいたように、大変ではあるが月に1~2回の講習会を文化会館の施設を中心にして実施していきたい。多くの村民に関わってもらいたいので送迎なども考えている。また、施設外での講習もありではないかと思う。

新規事業の早期着手を

肝心なのはスピード感

立花裕美子

1. 新規事業の年間計画

問 平成29年度当初予算が3月9日に成立し、いくつかの新規事業が計画されている。①まず、28年度の主な新規事業について・ハード事業の着工竣工年月日を確認したい。・ソフト事業で要綱が整備されたり具体的な内容が決まり村民に周知され実際に事業がスタートした日を示していただきたい。

答 (総務課長) 別紙の通りである。

問 工事請負・業務委託契約状況調書で確認したが、100万円以上の契約なのに調書から落ちているものもあったし、3月議会では第1日目に配付されなかった。管理職のチェック体制と横の連携を強化すべきと思うがいかがか。

答 資料の不備は改善すべきで、今後対応したい。

問 この質問の本意は課長の方々に理解いただい

ていると思うが、あまりにも遅いものがある。その年の新規事業は目玉である。「今年度これをやる」ということで優先的に予算化されたもの。そういう村側の思いを受けて、議会で審議し議会日より等で村民への周知もしている。それが、8か月も手付かずで、最終的に村民に動きを示したのが9か月後ということでは、当初で予算化した意味がない。村民のためスピード感を持って当たるべきと思うがいかがか。

答 28年度についてはおっしゃるとおりである。本年度から総合戦略の計画をどう実践していくか、庁内で確認しあう形を整えた。その都度報告を受け、進捗をも含めチェックする体制を作った。昨年までのことは反省しつつ、今年度やっていくのでご理解いただきたい。

問 もう1点村営住宅について。平成23年度小川テニスコートに建設された单身向け8戸の時は、2月29日竣工、3月14日見学会が行われている。翌年24年度世帯向け4戸の時はその時の3月議会村長報告で3月5日業者検査、3月13日竣工検査予定と報告されている。ところが今回は3月31日竣工、4月1日には入居できない。年度切り替えの4月1日は入居したいと思う人が集中する節目の日と思う。なぜ4月1日入居可能ないように計画できなかったのか。

答（総務課課長補佐） 当然考えるべきだった。3月31日までに予算執行できればいいとした。その中でも3月中旬竣工、4月1日入居を目指したが、インフルエンザ流行等あり、工期いっぱいの引き渡しとなった。

まとめ インフル流行等は理解するが、今後は利用者の立場に立った考えを持つべきである。



上条区浅原宅下に建設された新村営住宅

問 ②29年度新規事業について、同様に実施に向けた日程を教えてください。

答（総務課長） 別紙のとおり予定しているが、事業によっては国・県へ補助金や起債の申請（ヒアリング等も）必要なので、新年度に入ってから検討し通常業務と調整して行っていく。

問 すべて予想より着工が早くて驚いている。2点質問する。銀河の零製造本数は、年間予定でいつ何本、いつ何本と積み重ねられた上での数字か。

答（村おこし推進課長） 昨年製造した2万本のうち3700本が残っているため、その在庫数を加味して、また1万本が最低ロットのため、1万本とした。

問 私の印象としては、必要と思われる時に配られていなくて、必要だと思われないときの配られているように感じる。例えば去年は3年に1度の林鉄フェスティバルだったが、この時は配られていない。一方、地区の草刈の時「家族の分も持って行くように」と配られた。村民はこの水を欲しているか。上条コミセンでは夏休みまでこの水のダンボールが玄関に何箱も残っていた。1万本の配布について計画性がないように思われる。

ボトルのラベルに付加価値を付け、災害時の保存用飲料として下流域等に営業してはどうか。

答 下流域への営業は行ったが、それぞれの市町に製造工場があり、「地元優先」ということで叶わなかった。

問 29年度当初予算の新規事業は一番遅いものでも9月着工ということで、工事請負・業務委託契約は12月議会までに調書配布されるものとの認識でいいか。

答（総務課長） そのとおり予定している。よほどの災害等がない限り実施していく。

2. 集落支援員

問 平成29年度当初予算に集落支援員事業費1,079万9,000円が盛られた。王滝村の場合、次の項目についてどのように考えているか、具体的な方向性を伺いたい。

①「集落」という文言の考え方

答（村おこし推進課課長補佐） 基本的には各地区だが、事案によっては王滝村全体を集落と考え柔軟にこの制度を活用したい。

問 ②今現在「地域の実情に詳しい人材」は村外

に当てがあり、その方が移住して支援員となる可能性はあるか。

答（村おこし推進課課長補佐）「地域の実情に詳しい人材」の当てはないが、ノウハウや知見のある方があれば登用を考える。

問 ③村民を想定した場合、村職員と協力して集落支援に取り組もうとする人材の当てがあるか。

答（村おこし推進課課長補佐）集落支援員になっていただく方というより、各分野でノウハウや知見のある方を募集するものである。

問 ④集落点検から始めるのか。⑤集落の課題はまだ出ていないという認識か。

答（村おこし推進課課長補佐）点検から始めない。集落の課題や施策の提言は、平成27年度の総合戦略構築の中で出ている。

問 ⑥支援員と協力して課題解決に取り組む職員はどの部署の職員か。

答（村おこし推進課課長補佐）集落支援員を必要として募集した部署である。

問 午前の西村議員への答弁で「お年寄り元気プロジェクト」として集落支援員を募集するとあったが、これは何名を予定しているか。

答（村おこし推進課課長補佐）1名である。

問 残り2名は今後、各課から募集希望があったときに募集するというのを各課長、認識していたか。

答（総務課長）（すべての課）内容は聞いている。

問 ⑦支援員の賃金等を総合的にマネジメントするのは、村おこし推進課か。

答（村おこし推進課課長補佐）賃金等予算の執行予算の管理は村おこし推進課で行う。

まとめ 地域おこし協力隊の活動支援や状況把握もままならない現状で、集落支援員まで目が届くのか懸念されるが、しっかりやっていただきたい。

問 ⑧地域課題の解決に向けた経費として（30万×3人の）事業負担金があるのか。

答（村おこし推進課課長補佐）1人あたりかけられるという意味で30万円で事業解決するという意味ではない。

問 予算概要書の集落支援員の説明部分に、①地域交通の確保から⑦集落の自主的活動の支援まで7つの事例が紹介されていたが、30万円でできる事業とは思えない。村が支出すべき事業であると思うが、その都度検討するのか、一律に基準を設けるのか。



現在村内で活動中の地域おこし協力のみなさん。

左側から 井川 純さん、井川竜太さん、
大山静香さん、鈴木里奈さん、
飯寄 聡さん、倉橋孝四郎さん

答（村おこし推進課課長補佐）各課の事業が先にあって、そこに集落支援員が支援の形で入る。事業が先にある。

問 ⑨兼務の支援員を採用することも考えているか。

答（村おこし推進課課長補佐）専従を予定しているが、ケースバイケースで、兼務の可能性もある。
まとめ 長振と総合戦略によって、やるべき事業や向かうべき方向性は定まっている中で、実行に移すことの難しさを日々感じている。実行できそうな項目さえ、この2年手をこまねいているうちに子ども達は2学年進級している。先日村民と議員との懇談会で「議員の力で役場職員を動かして」という意見を頂いた。これまで、「こうしてはどうか」「一緒にやっていこう」と何度も呼びかけて来ているが実現に結びつかず、力のなさを感じている。

そんな中、集落支援員の方となら課題解決できるのであれば、そんな有難いことはない。この制度の成果に期待する。

3. ビジターセンターと御嶽山マイスター

問 ビジターセンター基礎調査業務は平成27年度補正8号で700万円の予算が計上され、28年度の繰越事業となっている。

①ビジターセンターと御嶽山マイスターについての村長の思いを伺いたい。

答 改めて犠牲になられたみなさんに哀悼の誠を捧げ、行方不明のみなさんの早期発見を願っている。平成27年6月にレベル2となり、避難小屋

の噴石対策、保安監視業務を実施し、9合目まで入山可能になってきた。火山と共生している自治体として二度と火山噴火による犠牲者を出さないことを肝に命じているところである。

まず御嶽山マイスターについては、名称含めこれから制度設計される。県の火山防災のあり方検討会報告書で次のように記載されている。「御嶽山周辺地域において火山防災に関する知識の効果的な普及啓発を担うことができる人材と認められた資格者」と想定している。火山防災に関する知識の効果的な普及啓発を担うことができる人材として、登山者や観光客等、山を目指す人や住民に普及啓発活動するために欠かせないもの。

ビジターセンターは火山の理解、危険性の認識、防災上の知識と行動など火山防災のための情報発信を行う施設として有効なものと認識している。これからの火山防災の拠点となっていかなければならないもの。この二つが融合することにより、効果的な火山防災活動につながると確信している。

問 村長の思いはご遺族や山小屋関係者、村民、役場職員、また木曽町の関係者にどのように伝わっているか。

答 ご遺族には別の形だが、可能な限り作り上げてきている。

問 ②ビジターセンター基礎調査は3月末に完成と聞いているが、議会にも示していただけるか。村民へはどうか。

答（村おこし推進課長） 3月末完成、今後木曽町と協議した後、しかるべき時期に議会へ示す。村民へもその後示したい。

問 木曽町と協議してからというのは、なぜか。

答 ビジターセンターは木曽町と王滝村それぞれで建設するようになっていたが、「通り道に核となるものを1箇所作り、サテライトをそれぞれの登山口に作ってはどうか」との提案があったため、木曽町とのすり合わせが必要になったもの。

問 ③今後の計画について時期を示して教えていただきたい。

答（村おこし推進課長） 木曽町とのすり合わせ後進めるが、財源等は今後検討。現時点では建設時期等、示せない。

まとめ ビジターセンターは基礎調査だけで680万円かかっている。今後、かなりの財政出動と検討と建設に期間を要するだろう。また御嶽山マイスターもすぐに人材育成できるものではない。数年

計画でも、ビジターセンターとマイスター制度が同時にスタートできるよう進めていただきたい。

問 ④県の寄付講座として名古屋大学大学院地震火山研究センターの研究施設が、木曽町三岳支所に設けられるとのことだが、維持管理費等の予算はどのように考えているか。

答（総務課長） 平成28年11月16日に県と木曽町・王滝村が名大へ研究施設の設置をお願いして、三岳支所へ設置の方向となった。3～5年間の基本計画で、調査研究費・旅費・人件費ほか年間1,500万円を県と名大の協定に基づき、県が支援してくれるので今のところ村の負担はない。

議会傍聴の感想文を書きました

議会の傍聴に行くことは、私にとって分不相応な気がしていましたが、下出議長はじめ、議員の方々から「傍聴に来てください」との言葉をかけて頂き、「行ってみようかな」と心が動きました。

一般質問を傍聴させて頂き、議会での「張りつめた空気感や臨場感」そして、そこで繰り広げられる「攻防や駆け引き」が、私の胸に直接伝わってきました。

議事録を読んだだけでは得られない雰囲気を感じ、縁があって訪れ、そして大好きになった王滝村だからこそ、村の現状と課題、そして進むべき方向性について、一村民として真剣に考えていかなければと感じた一日でした。



議会2日目、一般質問に聞き入る傍聴者の皆さん

平成29年木曽広域連合第1回定例会

平成29年2月28日に開催され、条例の一部改正3件、公の施設に係る指定管理者の指定1件、28年度補正予算、29年度当初予算が各2件、計8件の議案が上程され、全て原案どおり可決された。終了後、全員協議会が開催された。

・会期の決定 2/28(火)～3/3(金) 4日間

議案及び概要は次のとおりで全議案について原案通り可決した。

- ・(議案第1号) 木曽広域連合職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正
- ・(議案第2号) 木曽広域連合職員の育児休業等に関する条例の一部改正
- ・(議案第3号) 木曽広域連合職員の給与に関する条例の一部改正
- ・(議案第4号) 公の施設(木曽文化公園宿泊施設)に係る指定管理者の指定について
指定管理者候補者選定結果に基づき指定管理者を日義観光開発(株)に指定するもの。
指定期間 平成29年4月1日～平成34年3月31(5年)
- ・(議案第5号) 一般会計補正予算(第4号)
補正額38,779千円を減額して総額4,096,501千円にすることについて主として人件費、需用費の実績補正、情報事業費の工事負担金の増額、新ごみ処理建設事業の入札差金の減額等計上債務負担行為、火葬場緑聖苑の管理について民間委託を行うための設定。
- ・(議案第6号) 介護保険特別会計補正予算(第4号)
補正額0円で総額4,266,010千円にすることについて、主として人件費の減額
- ・(議案第7号) 平成29年度一般会計当初予算
総額4,880,849千円 新ごみ焼却施設建設事業8億2千万円余りの増
- ・(議案第8号) 平成29年度介護保険特別会計当初予算
総額4,324,559千円 前年度当初対比166,330千円の増、主なものは保険給付費の増額。

平成29年松塩筑木曽老人福祉施設組合議会 2月定例会報告

平成29年組合議会2月定例会は、2月15日に開会し、提出された3議案をすべて原案どおり可決し閉会した。

《提出議案》

- ①平成29年度松塩筑木曽老人福祉施設組合一般会計予算…総額44億5,600万円(前年度対比2億8,200万円、6.0%減)
歳入…施設利用率は0.6ポイント減の93.2%を見込み、サービス収入を42億1,401万円余(前年度対比3,326万円、0.8%減)とした。サービス収入が歳入の94.6%を占める。
歳出…嘱託員報酬の引き上げ、正規職員採用増等のための経費を計上、人件費が27億2,425万円余(61.1%)を占める。サニーヒルきそ・デイそほくの大規模改修にむけた実施設計委託とやまびこの里の基本設計委託を盛った。
木曽あすなろ荘は、坂下病院の存続が不透明なことから大規模改修はいったん見直し、あり方検討会で検討していくこととした。
- ②平成28年度松塩筑木曽老人福祉施設組合一般会計補正予算(第2号)…事務事業の精算に伴う経費、施設の維持、管理運営に必要な経費で緊急を要する経費。補正予算の規模は1,370万円。
歳入の主なもの…利用率減によるサービス収入減と退職手当基金繰入金
歳出の主なもの…退職手当の増と嘱託員報酬の減、物件費の不用額等
- ③老人デイサービスセンター条例の一部改正…介護保険法の改正により、通所介護の規定を削り、第1号通所事業の規定を加えるもの。

請願と陳情

3月定例会で審議された請願・陳情等の採択・不採択状況は下記のとおりです。

- 「緊急事態基本法の早期制定を要望する意見書提出を求める陳情書」

(資料配布)

- 「『共謀罪（テロ等準備罪）』法案の国会提出に反対する意見書提出を求める陳情書」

(継続審査)

- 「木曽地域の活性化を図るため、木曽青峰高等学校の専門科（森林環境科・インテリア科）の充実発展と木曽地域の高等学校の30人学級をもとめる陳情書」

(採 択)

王滝村人権擁護委員に 植木 雅史 氏を選任

王滝村人権擁護委員の任期満了に伴い、植木 雅史氏が再任された。

任期は平成29年7月1日から
平成32年6月30日までの三年間。

《 編 集 後 記 》

道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつの間にか深い山間に埋もれた……「夜明け前」の一文である。「道路の位置は幾たびか改まった」のだから、村内の古道も同じルートにも幾つかあるのだろう。少なくとも、車社会になる前の、人間が自分の足で歩いた頃の古道を、村内くまなく辿ってみたいと思うこの頃である。(裕)



今が見ごろの梅の花
(上条区内で)

議会日誌

12月

- 13日 議会12月定例会（閉会）
- 14日 第2回村民との懇談会
- 26日 木曽郡町村議会議長会（木曽町）
- 〃 商工懇談会（くるみ沢旅館）
- 27日 例月出納検査（11月分）

1月

- 11日 木曽町商工会賀詞交歓会（木曽町）
- 12日 王滝村消防団出初式
- 16日 議会だより（134号）発行
- 23日 総合戦略会議（保健センター）
- 26日 例月出納検査（12月分）
- 〃 御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑建立実行委員会（木曽町）
- 28日 水資源機構との懇親会（八海山荘）
- 30日 議会広報研修会（安曇野市）

2月

- 9日 小中学校参観日
- 14日 日本遺産「木曽地域」シンポジウム（木曽文化ホール）
- 15日 松塩筑木曽老人福祉施設組合議会2月定例会（塩尻市）
- 18日 砂防懇談会（大桑村）
- 20日 議会運営委員会
- 〃 木曽広域連合議会運営委員会（木曽町）
- 〃 木曽広域連合議会福祉環境常任委員会（木曽町）
- 〃 木曽広域連合議会総務常任委員会（木曽町）
- 21日 木曽広域連合議会経済観光常任委員会（木曽町）
- 23日 長野県町村議会議長会第24回定期総会（長野市）
- 〃 木曽郡町村議会議長会（長野市）
- 28日 例月出納検査（1月分）
- 〃 木曽広域連合議会2月定例会（木曽町）

3月

- 3日 全員協議会（当初予算概要説明他）
- 〃 議会運営委員会
- 7日 社会福祉協議会理事会
- 9日 議会3月定例会開会
- 13日 議会運営委員会
- 16日 小中学校卒業式
- 17日 議会3月定例会閉会
- 23日 卒園式
- 28日 例月出納検査（2月分）

4月

- 5日 入園式
- 6日 小中学校入学式
- 11日 木曽郡町村議会議長会（木曽町）